

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	36387	
事業名	IT利活用ビジネス拡大費						
評価担当課	所属名	経)経済戦略推イノベーション					
	課長名	吉田 泰斗	担当者名	有城 賢二	電話番号	211-2379	
施策名	主	-					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	市内他産業に対するIT導入の促進や首都圏企業との受託開発案件を発掘することにより、市内IT企業の新たな販路の拡大、他産業企業の売上増加などを旨とする。				
		長期	市内IT企業の高い技術力をアピールし、他産業におけるIT活用促進支援を図ることで、市内IT企業の売上高増加や販路拡大を旨とするともに、全産業の高付加価値化および生産性向上に繋げる。				
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・IT利活用拡大セミナー:他産業(食など)企業がITを導入することの有用性の理解を深めるためのセミナーを開催 ・ビジネスマッチング:ITコーディネータ等を活用し、市内IT企業とバイオ企業や他産業とのビジネスマッチングを実施 ・IT利活用促進事業費補助金:他産業企業のIT利活用導入等に対する補助を実施 ・ITバイオ研究開発補助:ウエットラボに入居する企業の研究開発に対する補助を実施 ・ニアショア獲得事業補助金:「札幌商工会議所ニアショア推進協会」で実施する、首都圏でのIT系展示会出展やマッチング交流会への支援 					
実施結果	イノベーションセミナー等においては、オンラインで全2回開催し合計88名が視聴。マッチング交流会については、運輸業界、札幌洋菓子協会、バイオ業界と市内IT企業(10社)で実施。2社が令和4年度の補助金活用に繋がった。IT利活用促進事業費補助金は8件応募で7件の採択。IT-バイオ研究開発補助金については3社に対し補助を実施。ニアショア獲得支援では、JAPAN IT WEEK秋に市内企業4社が出展し、支援を契機に1件の商談に繋がった。						
事業実施における工夫点	ビジネスマッチングにおいては対象とする他産業企業の業種の絞り込みを行うなど、IT企業とのマッチングの精度をより高めている。						
対象者	市内IT企業、市内他産業企業			開始	平成23年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	無し						
他都市の状況	・岐阜県「ITものづくり等推進支援事業費補助金」:ITを用いて他産業に対する付加価値の高い研究、開発を行う研究開発への補助金						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	20,089	29,000	25,788	0	
うち特定財源	0	5,000	4,447	0	
人工	0.3	0.2	0.2	0.0	
人件費	2,160	1,440	1,440	0	
計(事業費+人件費)	22,249	30,440	27,228	0	
事業費の内訳	令和3年度決算	<ul style="list-style-type: none"> ■さっぽろ産業振興財団への補助金 24,721千円 (イノベーションセミナー、ビジネスマッチング4,251千円、IT利活用促進事業費補助金8,894千円、IT-バイオ連携促進事業:4,999千円、人件費6,577千円) ■札幌商工会議所への補助金:1,007千円(ニアショア獲得事業補助金) ■市事務費 60千円 			
	令和4年度予算	DX推進費と統合し「中小企業DX推進事業費」で実施			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
活動指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1	指標名	札幌市情報通信業の売上高成長率(累計)		
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
	6.2%	8%	11.20%	8%
成果指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由		
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	イノベーションセミナーでは88名の参加。ビジネスマッチング交流会では、洋菓子、運輸、バイオ業界から8社と10社の市内IT企業と交流会を実施し、2社のマッチングに繋がった。IT活用促進事業費補助金は、8件応募で7件の採択。IT-バイオ研究開発補助金については3社に対し補助を実施。ニアショア獲得支援では、首都圏展示会に市内企業4社の出展を支援し、支援を契機に1件の商談に繋がった。		
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	新型コロナウイルス感染拡大も影響して、デジタル化に対するニーズは増大している状況であるため、網羅的に事業を展開していくことは適切であると考えられる。		
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	幅広いネットワークとノウハウを持つ財団とともに進めることで関係団体と連携をして事業を実施できている。また、マッチング交流会については、他産業との協業に繋がっていることから、業種を絞って実施する方法は適切かと思われる。		
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	セミナーやマッチング交流会には多数の企業から参加があり、対象者へのアンケート結果も高評価である。IT企業、他産業からのニーズは高いものと判断されることから、今後も同様の事業を継続して実施すべきである。		
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	DXという言葉と概念が、世の中に浸透してきていることから、企業はIT活用に留まらないデジタル化を進めていくことが求められているため、本事業の内容はDX推進の事業と一緒に実施する必要がある。			
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
今年度取り組んだ見直し内容	DX推進費と統合して事業を実施。補助金を拡充し、DXアドバイザー派遣などの新規業務を展開している。		見直し効果額 (前年度)	0 千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
評価の理由	マッチング交流会から2社の協業に繋がっており、新設した補助金に繋げることができた。また、IT-バイオ研究開発補助金を活用することで、エレクトロニクスセンターウェットラボへの入居企業が年々増加している。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 ● 休止・廃止 令和4年度にDX推進費と統合して、中小企業DX推進費となっている。		
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 ● その他 令和4年度にDX推進費と統合して、中小企業DX推進費となっている。		見直し効果額 0 千円